

第三回模擬試験問題（国語）

受験番号
氏名

一 次のA～Cの問いに答えなさい。

A 次の1～5の傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 恐縮おそくしました。
- 2 機敏きびんに動く。
- 3 感涙かんだいにむせぶ。
- 4 称賛しょうさんする。
- 5 柔らかい毛布。

B 次の1～5の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- 1 トウメイトウメイなガラス。
- 2 ウウかれて踊りだす。
- 3 オンケイオンケイを受ける。
- 4 奈良ボンチ奈良ボンチの地形。
- 5 花がカカれる。

C 次の1～5のそれぞれの問いに答えなさい。

- 1 次の□に体の一部を表す漢字一字を次のア～エから選び、慣用句を完成させなさい。  
何回も練習したので、本番は□がすわった。  
ア 膝      イ 腰      ウ 胃      エ 肝
- 2 次の□に適切な漢字を入れ、四字熟語を完成させなさい。  
七〇八倒
- 3 傍線部の言葉を敬語に直しものとして、適当なものを次のア～ウから選び記号で答えなさい。  
母が、先生にくれぐれもよろしくと言っておりました。  
ア 申して      イ おっしゃって      ウ 奏して
- 4 傍線部の品詞の種類として適当なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。  
彼の後姿はとても美しい。  
ア 名詞      イ 形容動詞      ウ 形容詞      エ 動詞
- 5 「走れメロス」の作者は誰か、適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。  
ア 夏目漱石      イ 野口雨情      ウ 与謝野晶子      エ 太宰治

二 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

高校三年生に進級した小熊は、二年生の頃と代わり映えない日々を過ごしていた。もしかしたら、何も変わらないと自分に言い聞かせていたのかもしれない。

担任教師は持ち上がりで変わらなかったが、教室が三階から四階になり、廊下を歩いていても下級生とすれ違うことが増え、恵庭慧海という小熊にとって興味深い知り合いも出来た。

変化は気づかないうちにゆっくりと起きている。とはいえ、それは気づきたくない人間が目をそらすことが出来るほど遅くはない。

小熊はそんなことを思いながら、職員室の隣にある、①ある目的のために作られた小部屋をノックした。

ドアの上には進路指導室と書かれたプレートが吊り下げられている。一年生や二年生の時にはまだ無縁だと思っていた部屋。

このちっぽけな箱の中で、小熊は自らの人生を決めさせられることになる。

ここに来た理由は、朝のホームルームが終わった後の、担任教師からの呼び出し。進路についての話があるので、放課後に進路指導室に来るようにと言いつけられた。まだ一学期の中間試験が始まる前だったが、小熊は自分が②他の同級生より早めに動き出さなくてはいけない立場だということを思い知らされた。

スーパークブに乗るために、役所や警察での手続きが必要であるように、高校生の自分が生きていくためには色々な義務がある。

少し気の重い小熊は、許可を得てドアを開け、既に書類が並べられた机の前に着席した。

小熊が高校一年生で親無しになった時にも親身になってくれた担任教師は、三年生になった小熊の進路にも気を配ってくれていた。

親の居ない寂しさとかいう、小熊にはあまり縁のない感情について気を回しすぎるところはあったが、担任教師が持ってきてくれた話は、小熊にとっても③魅力的なものだった。

奨学金による大学進学と、それに伴う灰色の受験生活を回避する指定校推薦。

遅刻や欠席がほとんど無く、成績も並ながら出来不出来の偏りが無い小熊なら、推薦を得られるらしい。大学側の推薦担当者が保護者の居ない④小熊の天涯孤独の境遇に同情的だったという話を聞いた時は、少し鼻を鳴らした気分だったが、どっちにせよ入ってしまったばこっちのもの。

担任教師が紹介してくれた、都内にある公立大学には特に専攻したい学科など無かったが、とりあえず自分が一度失った人並みの生活を恒久的に送りたいという目的には適ったものだった。

た。

大学のレベルは小熊が推薦ではなく一般受験で受けても、これからの努力で合格出来るかどうか微妙なライン。

担任教師は東京都下の自然豊かな新興都市に作られた、理想的な大学生活におあつらえ向きのキャンパスが掲載されたパンフレットを見せながら言った。

「今すぐに決めるとはいわないわ。中間試験が終わったら公休を取って学校見学に行つて、それから決めればいい」

⑤急に面倒臭くなった小熊は、進学する大学をどこにするかという選択を、夕飯に何を食べてよいか考えるような気分を決めてしまいたくなくなったが、⑥とりあえず担任教師に礼を言い、近いうちに学校見学に行くことを伝えた。  
(トネ・コーケン著『スーパーカープ3』)

問一 傍線部①「ある目的」について、その目的を端的に答えなさい。

問二 傍線部②「他の同級生より早めに動き出さなくてはいけない立場」について、その理由として最も適切なものを、ア～エの選択肢から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 経験上、書類作成や手続きが苦手で時間がかかるため。
- イ 担任教師が、何事につけても気を回しすぎるため。
- ウ 高校一年生のときに親を亡くし、保護者がいないため。
- エ 他の生徒に獲られる前に指定校推薦の獲得が必要だから。

問三 傍線部③「魅力的なものだった」について、それはなぜか答えなさい。

問四 傍線部④「小熊の天涯孤独の境遇に同情的だった……少し鼻を鳴らしたい気分だった」について、それはなぜか答えなさい。

問五 傍線部⑤「急に面倒臭くなった」について、その理由として適当なものを、ア～オの選択肢から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア まだ先だと思っていた進路決定を迫られたから。
- イ お腹が空いて夕飯に何を食べるか考えるのに夢中だったから。
- ウ 外に友人を待たせていることを思い出したから。
- エ 提示された大学に専攻したい学科がなかったから。
- オ 周到に準備されていたパンフレットに嫌気が指したから。

問六 傍線部⑥「とりあえず……学校見学に行くことを伝えた」について、そうした理由とし

て適当なものを、ア～オの選択肢から2つ選び、記号で答えなさい。

ア 大学について説明を聞くうちに、大学生活への期待からいてもたってもいられなくなつたから。

イ 高校一年のときに親無しになって以来、小熊に親身になってくれる担任教師の気づかいへの配慮ため。

ウ すばらしい大学の指定校推薦の提案をもらい、感謝の気持ちでいてもたってもいられなくなつたから。

エ 公休で学校見学に行くことができることを担任教師から教えられ、学校見学が楽しみになつたから。

オ まだ無縁だと思っていた進路決定を担任教師主導で進められ、決定を間近に迫られ困惑したから。

三 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

現代のサラリーマンは朝定時に会社として昼間働き、夕方に退社するという生活を規則正しく送っている。シーナ・イーストンの歌の文句にあるように、

私の彼は朝の汽車に乗るの  
九時から五時まで働いた後は  
彼を待つ私のいる家庭へと  
また帰ってくるのよ

(「ナイン・トゥ・ファイブ」)  
⑦時から⑧時まで働く人は、①どんな

ものの考えかたや価値観で仕事をしているのだろうか。わかりやすく考えるため、簡単なモデルをとりあげてみよう。

いまかりに、ある商品を製造している工場があったとし、この工場では製品一個につき千円を払うという出来高賃金制がとられていたとしよう。そして平均的な労働者は一日に三個つくり、三千円の日当を得ていたとする。たまたまあるとき、市場の需給関係が変動して、早急に出荷すれば、いくらでも高い値段で売れるという大儲けの絶好のチャンスがやってきた。このとき、②経営者はどうすればいいだろうか。よく考えてみてほしい。

通常、現代の経営者なら次のように考えるだろう。一個あたりの報酬をはずめばよい。期限を切つて、その日までにできあがった製品については、いつもより高い報酬を与えるのだ。そうすれば、労働者はおおいに励んで蓄えを殖やそうとするにちがいない。一個千五百円にしてみよう。すると一日四個つくればなんと六千円の収入になる。通常の二倍だ。わるい話じゃないはずだ……

一個あたり単価があげれば、労働者はいよいよ生産に励むだろう。ふつうわたしたちは常識的に考えてそう思う。だが、はたしてそうだろうか。実は、パフォーマンス主義の価値観が浸透

した社会でだけ、答えはイエスなのだ。

パフォーマンス主義が成り立っていない社会だと、答えはノーだ。なぜか。

このばあい、労働者は次のように考える。これまでは一日三個つくって三千円を得ていた。それで生活は曲がりなりに維持できたし、不満はない。もちろん欲をいえばきりがいいが、これまでの生活を続けていければそれでよいのだ。いま一個つくって千五百円もらえるようになったのなら、これからは一日に二個つくればよい。それで三千円の日当になるのだから。

……

③右の労働者が投げどころにしているのは「きょうもまたかくてありけり、明日もまたかくてありなん」といった考えかたである。もちろんこういう考えは、日進月歩の激しい変化のなかで生きている現代人には④なじみがたいものである。しかし、もし右のような考えがひどく

⑤非常識的に感じられるとすれば、それはわたしたちがパフォーマンス主義的な思考様式にどっぷりつかっているからなのだ。

(広岡守穂著『豊かさ』の「パドックス」)

問一 空欄⑦・⑧について、適切な漢数字で補いなさい。

問二 傍線部①「どんなものか考えたや価値観で仕事をしているのだろうか」について、最

適な語を本文より九字で抜き出して答えなさい。

問三 傍線部②「経営者はどうすればいいだろうか」について、経営者は普通どう考えたと著者は考えているか、端的に答えなさい。

問四 傍線部③「右の労働者」について、どのような社会に生きている者を指しているか、答えなさい。

問五 傍線部④「なじみがたい」について、それはなぜか答えなさい。

問六 傍線部⑤「非常識的に感じられる」について、その理由を答えなさい。

5

四

次の古文を読み、後の問いに答えなさい。

①龜山殿の御池に、大井川の水をまかせられんとて、大井の土民におほせて、水車をつくらせられけり。多くのあしを給ひて、②数日に営み出だしてかけたりけるに、③大方めぐらざりければ、とかなほしけれども、④終にまはらで、Aいたづらに立てりけり。さて、宇治の里人を召して、こしらへさせられければ、やすらかに結ひて参らせたりけるが、思ふやうにめぐりて、水を汲み入るる事、Bめでたかりけり。万にその道を知れる者は、やんごとなきものなり。

〔語注〕

(日本古典文学全集『徒然草』)

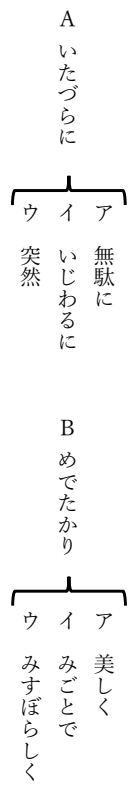
龜山殿：嵯峨上皇が龜山山麓に造営した御所のこと。嵯峨殿とも呼ばれる。

土民：地元の民

多くのあしを給ひて：たくさんのお金をくださって

6

問一 二重傍線部A「いたづらに」B「めでたかり」の言葉の意味を、ア～ウの選択肢からそれぞれ選び記号で答えなさい。



問二 傍線部①「亀山殿の御池」に何を作ったのか、本文中から抜き出しなさい。

問三 傍線部②「数日に営み出だしてかけたりけるに」の現代語訳として適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 数日後水車を川に掛けておいた
- イ 数日のうちに村人に声をかけて
- ウ 数日のうちに全員で水を出して
- エ 数日かかって水車を作りあげて

問四 傍線部③「大方めぐらざりければ」の現代語訳として適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大体のものは回ったが
- イ 全く回らなかった
- ウ 少しだけは回ったので
- エ 全く考えなかった

問五 傍線部④「終にまはらで」を現代語訳しなさい。

問六 本文の内容と合致するものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 宇治の里人の者が、水に関する問題はすべて解決してくれた。
- イ 大井の土民たちが考え、工夫したことで水車を回すことに成功した。
- ウ 水車を動かしてくれた宇治の里人は大変賢く、高貴な身分の者であった。
- エ 宇治の里人が問題を解決したように、専門の道をわきまえている者はすばらしい。

五 作文

来年の干支は「うさぎ」ですが、もしあなたが干支に動物を一つ加えられるとしたら何を加えますか。理由を添えて説明しなさい。

- 1 原稿用紙の書き方に従うこと。
- 2 題名・氏名は原稿用紙のマスの中には書かないで、始めの行から書きだすこと。
- 3 字数は二百字程度とする。

一 30

受験番号
氏名
得点

C	B	A
1	1	1
エ	透明	きょうしゆく
2	2	2
転	浮	きびん
3	3	3
ア	恩恵	かんるい
4	4	4
ウ	盆地	しょうさん
5	5	5
エ	枯	やわ

二 17

問一	(小熊に) 進路指導(をすること)	問二
問三	人並みの生活を送りたいという目的には適ったものだったから。	ウ
問四	親の居ない寂しさとかいう、(小熊にはあまり縁のない)感情について気を回しすぎるから	
問五	ア	
問六	イ	
問六	オ	

三 18

問一	㊦ 九	㊧ 五							
問二	パ	フ	オ	ー	マ	ン	ス	主	義
問三	一個あたりの報酬をはずめばよい								
問四	パフォーマンス主義が成り立っていない社会								
問五	現代人は日進月歩の激しい変化の中で生きているから								
問六	わたしたちがパフォーマンス主義的な思考様式にどっぷりつかっているから。								

四 15

問一	A	ア	B	イ	問二	水車
問三	エ	エ	問四	イ	問五	どうとう回らなかった
問六	エ					

五 20 題名を書かずに、書き始めること。

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
【配点】									
一 1問2点ずつ									
二 2点(問二、問五、問六それぞれ)									
3点(問一、問三、問四)									
三 2点(問一㊦㊧それぞれ、問二)									
3点(問三、問四、問五、問六)									
四 2点(問一ABそれぞれ、問二、問三、問四、問六)									
3点(問五)									
五 20点									